



日野学園だより

31

品川区立小中一貫校 日野学園
校長 青木 経
ホームページアドレス

平成20年12月1日

<http://www1.cts.ne.jp/~hinogaku/>

あたたかい あなたの ^て その手 ^{ことば} その言葉

^{いまおも} 今思ったんだ ^{おさむ} いつもアリガト (8年4組 ^{まつぎ} 眞継ありさ)

校長 青木 ^{おさむ} 経

いつの間にか本校周辺のハナミズキも赤い実を付け枯れ葉が舞う季節となりました。上に掲げた短歌は8年生の授業で創作され、クラスで一番投票が多かった作品です。アリガトの相手は、お母さんです。普段なかなか口に出しては言えなくとも、子どもたちは常に親への感謝の気持ちを忘れずに生活しています。作者は勿論ですが、クラスのみんなが同じ気持ちをもっているからこそ、共感を得たのでしょう。

同じように感謝の気持ちを子どもたちに表現させる授業に参加しました。3年生が一枚の招待状を持って校長室を訪れてくれましたが、そこには「あなぐまさん ありがとうパーティ」と書かれていました。この授業は、「わすれられない おくりもの」の絵本を題材に構成された国語科の単元です。内容はあなぐまさんにお世話になったもぐら、かえる、きつね、うさぎに子どもたちがその立場になりきって「ありがとう」の気持ちを表現する活動です。私はあなぐまさんの役割を演じ、授業を通して子どもたちが考えた言葉や工夫した表現方法によって一生懸命に「ありがとう」の気持ち演じる姿に心があつくなる思いでした。

普段の生活の中で、人とのコミュニケーションの手段として携帯電話やパソコンを使用することが当たり前になり、直接相手に言葉を伝える機会が減っている傾向があるのではないのでしょうか。本校でも学校では禁止されていますが、殆どの生徒が携帯電話を持っていますし、6年生以下の学年においても携帯電話を低学年から持たせようとする傾向が顕著です。利便性は高いのですが、携帯電話のプロフやブログから実際に問題行動が発生し学校間の問題にまで発展しているのも事実です。6月の学校だよりでチェーンメールのことを取り上げその危険性を訴えましたが、改めて、12月のブロック朝礼や来年2月の地域健全育成協議会において、携帯電話等の使用の仕方について取り上げる予定です。

上記、2つの授業実践事例は、自己を振り返り、他者との人間関係に気付かせ、人への感謝の気持ちを表現させるものですが、11月26日から来年1月30日まで生徒会の生活委員会と、PTA学年部が一緒になって「あいさつ運動」を本校スロープ下で実施しています。今までなかなか生徒・児童と保護者が、共に活動することがありませんでしたが、これを機会にコミュニケーションの第1歩と言われる「あいさつ」が学校全体に広がることを期待しています。

また、人間関係を作るうえで必要なことを身に付けるために、市民科の授業にも力を入れていますが、11月13日(木)にはオランダの教育関係者が本校を訪問して、4年生の市民科授業を見学しました。オランダは子どもの主観的な心身両面からの健康・幸福度を測る調査において、調査国で一番幸福度が高い国です。市民科の授業観察後、「オランダのシチズンシップ教育の現状と品川区の市民科教育の取り組みと問題点」について2時間以上に渡り意見交換をおこないました。

11月28日(金)には4校合同研修会(第一日野小・第三日野小・御殿山小・日野学園)において、1年生が「やさしい まなざしで」、8年生が「自己アピールの方法」。共に市民科・人間関係形成領域を題材とした授業をお見せしました。本校では来年度、9年間を見通した市民科教育プログラムに着手しますが、学校や家庭で起きている問題を明らかにし、ご家庭の協力を得ながら解決していく所存です。

学校帰りの電車の中、ふと視野に入った人たちを見ました。1人、2人、3人…。ざっと20人中5人が携帯電話でメールを打っていました。3人がハンディゲームに夢中。3人はイヤホンをして自分の世界に浸っていました。黙々と機械と向きあっている姿は、何とも異様に見えてしまいます。そして、いつの間にか見慣れた光景になってしまっている自分が恐ろしく思えます。同じ光景を見て、何も感じることはない世代も多いのでしょうか。大げさですが自分は日本の将来を危惧してしまいます。

人間の脳は計り知れない能力をもっています。しかし、一般の動物と違ってその能力は生まれながらに備わっているものではありません。母親のお腹の中にいる間では育てきれない脳。生まれてから様々な体験を通して徐々に育っていく脳。機械だけを相手にしてはその能力を伸ばすことはできません。親や周囲の大人からの温かい声かけで、人を信頼し、自分を信じて生きる基礎ができるといわれます。今の日本は、子育てには決して望ましい環境ではないかもしれません。

機械は自分の気が進まなければスイッチを切ったり、違うソフトに替えたり、何でも自分の意のままです。自分の思い通りに世の中を動かすことができます。そんな環境で育つと無意識のうちに、何でも自分の思い通りになることが当たり前になってしまうとともに、我慢することを学べず育ってしまうのではないのでしょうか。しかし、人生は思い通りにならないことの方が多いものです。相手に合わせ自分が変わっていくことが人として大きく成長する糧となりますが、それがなかなかできません。昨今の、無差別殺人その他の凶悪な犯罪も今の日本の環境なら起こるべくして起こっているという感じがします。だからこそ、情報操作に踊らされず、真実を見抜き自分の判断で正しく生きる力を育てていかなければなりません。

そんなことを考えていたら、我が家から携帯にメールが…。自分もすっばりこの世界に生きていました。

—— 日野学園（第二日野小学校）「全日本学校歯科保健優良校」に！ ——

去る10月16日・17日、横浜を会場に全国学校歯科保健研究大会が開かれました。同時に全日本学校歯科保健優良校55校が表彰されましたが、その中の1校に本校が選ばれました。学校歯科医の先生方のご指導の下、本校の学校保健活動・健康づくりの取り組みが高く評価されたものです。これを励みとして、今後も子どもたちの健やかな育成をめざし、取り組みを継続して参ります。

4階フロアの連帯

5～7年ブロック長 加藤 伸作

5～7ブロックの2学期最大の行事は、文化祭2日目、合唱コンクールでのブロック合唱でした。5年2クラス・6年1クラス・7年4クラス(6組含む)の3学年全員が、ステージに並んでの合唱は、とても壮観でした。合唱を通じて培った連帯感を、ブロックとして大切にしていきたいと思います。次の5～7ブロックの行事は、1月に行われる「百人一首大会」です。日本の伝統文化である「和歌」に親しむことができるこの貴重な行事を、個人の資質やクラスの団結力の向上を図るだけでなく、ブロックの連帯強化にも繋げていくつもりです。この師走・正月はぜひ百人一首に挑戦させていきたいです。また、6年と7年の合同進路学習として、現在12月4日の職場訪問に取り組んでいます。



日常の学校生活では、4階フロアでのけじめのある、落ち着いた生活を送れるように、朝の8時20分着席、授業でのチャイム着席、昼休みの校庭・体育館利用、下校指導、ブロック朝礼の時間厳守などブロック全体で取り組んでいます。小中一貫校の長所を最大限に生かせる5～7ブロックのために、4階フロアの連帯を深めていきたいと思います。

1年生 石川 聡枝

1年生は、学校生活に慣れてきた反面、忘れ物が増えたりちょっとしたルールが守れない様子が見られるようになってきました。学年集会で学年の問題として話をしたり、教師が声かけをしたりして、約束・ルールを守ろうという意識付けを行っています。学習でのルールは子どもたちから進んで守ろうとする様子が見られます。チャイム着席や発表の仕方などが身に付いてきたところですが、さらに徹底して、2年生進級までに全員が身に付けられるように頑張りたいと思います。

2年生 小林 絵里

1年生の時は、自分のことで精一杯でしたが、2年生になって周りの友だちとの関わりがかなり広がってきました。物事を理論的に考えられるようになってきていますが、まだその考えが自分中心なため、友だちと衝突することやルールが守れないことが多くあります。言葉づかいの乱れも気になります。3年生に向けて、相手への思いやりをもって接する気持ちを育てることが課題です。

3年生 吉川 信次

学習を支える生活習慣の中で、特に大切なことは、「自分の持ち物は、自分でそろえる」ということです。忘れ物があったときには、「いつ時間割を揃えたの?」と聞くようにしています。自分の行動を振り返り、生活習慣を見直すきっかけになるからです。学校だけでは、解決できない課題なので、学習計画表を配布したり、忘れ物が続く時には、保護者に連絡したりしています。ブロックを卒業するまでに確実に身に付けておきたい生活習慣のひとつです。

4年生 伊藤 翔平

4月から8時25分のチャイムには、日直が進んで朝の会を始めるという取り組みをしてきました。その結果、朝の遅刻が減り、時刻を守るという習慣が身につきました。授業間のチャイム着席も児童は意識的に守ろうとしています。10分休みや昼休み明けの授業開始や、教室移動で少し時間がかかることがあるため、今後の課題として取り組んでいきます。

5年生 板橋 海

4月より8時20分着席 朝読書の習慣は、身につけており、毎朝落ち着いたスタートを切っています。休み時間は、フロアで遊ぶ姿も多かったため、昼休みは、教室残留なしを後期から実施し、体育館、メディアセンター、校庭に全員が出るようにしています。授業間の10分間の過ごし方がまだ徹底できていないのが、今の課題です。

6年生 芦川 龍彦

個性豊かな子どもたち39名。11歳～12歳。心身の発達段階が大きく違う集団である。第二次反抗期の情緒不安定な時期ですが、行動面で失敗体験を繰り返し、試行錯誤の活発な時期でもあります。従って、生活規範を事前に指導して、児童の行動の道しるべを示し、現在、いろいろな課題を指導しながら、学級の落ち着きを得ています。

7年生 吉本 奈央

7年生は「自主・勤勉・団結」を目標に、日々の生活を送っています。チャイム着席等時刻を守ろうという姿勢がだいぶ身に付いてきましたが、日野学園での生活にも慣れ、文化祭も終わった気の緩みからか、最近は不要物の持ち込みが発覚するなどの生徒指導が続いています。また、友人関係のトラブルをプロフ上に記入したり、メールで送信したりといった問題も発生していますので、情報モラルに関する指導をより強化していきます。8年生になるまでに、全員が落ち着いた学校生活を送れるよう頑張っていきます。

8年生 巻山 香

8年生は「落ち着いた学校生活を送る」を目標に、委員会の取り組みを含めた生活指導を学年全体で行っています。10月に学級委員会で呼びかけた「配膳キャンペーン」では、給食の配膳を早く終わらせるために各クラスが工夫し、終了後も意識が少し高まりました。一番最近の問題は、プロフ上でのトラブルです。具体的な場面での指導とともに、保護者の皆様との連携が重要となります。

9年生 小林 義和

9年生の特色ある取り組みは、「読書マラソン」です。ほとんどの生徒はきちんと登校し、読書をしています。また、その影響で進路に向けての気持ちが相乗効果を生み8:25遅刻が激減し、そして、校内での生活の始まりを落ち着いたものにして、「明るく、思いやりのある生徒をそだてる」ことを目標に、受験に集中できるように取り組んでいきたいと思っています。

6組 吉田 達

6組は、「返事」(名前を呼ばれたら「はい」と返事をする。・「あいさつ」(朝教室に入るときやお客様がお見えになったときに挨拶をする)を目標に取り組んでいます。最近では、チャイムが鳴ると、「チャイムが鳴った。席につこう」という声があるいろいろな生徒から聞こえ、チャイム着席の意識、学習への準備・態度が身につけております。

学年の生活指導の現状のなかに、ネット上の掲示板「前略プロフィール」「ブログ」での問題が上がりました。これは、一部の学年だけの問題ではなく、社会的な問題にもなっています。日野学園では、大きなことには発展していませんが、今後、起こらないとは限りません。個人情報知らないところから漏れたり、そこから事件に巻き込まれることも十分考えられます。学園では、5年生以上を対象に「情報モラル」についての指導を計画中ですが、今一度、ご家庭での携帯電話やパソコンの使用状況を確認し、個人情報の流失に注意してほしいところです。

なお、1年生から4年生の児童で使用しているお子さんについても今一度、使い方について確認してください。よろしく願います。

